

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 経済学部 1/2

<全体分析>

試験時間 80 分

解答形式

選択式・記述式・論述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・**やや減少**・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・**やや易化**・**変化なし**・やや難化・難化)

一昨年・昨年度に続き今年度も大問3題の構成。解答数は昨年度の45個に対し今年度は37個、論述は昨年度の8問に対し今年度は10問であったが、行数は昨年度と同じく21行である。全体的な分量としては昨年度と比べてやや減少しているが、論述の問題数が若干増加しているため、実際の受験生の負担はあまり変わらないだろう。資料の読み取りはいつそう重視されており、論述・資料読解を重視する傾向がますます顕著になっているといえる。

出題の特徴

短い論述問題を多く出題する傾向や年代整序問題・資料問題の出題は例年通り。経済学部の特徴である地図問題、経済のグラフ問題、図版・写真問題については、2020年度に全パターン出題されたのに対し、今年度は地図問題のみとなった。経済学部では、総じて難解な知識そのものは要求されないが、資料やデータをもとに知識を応用する能力が求められており、単なる史実の丸暗記では太刀打ちできない。

その他トピックス

かつて経済学部の定番であった1970～80年代のアメリカ経済史は、今年度も出題されなかった。本学部では、既に入試改革を先取りして思考力・判断力を重視する出題を行っており、とりわけ今年度に目新しい出題があったわけではない。世界史の中の日本という観点は引き続き見られ、大問Iで対馬を題材に近現代の日朝関係などが問われている。なお、Iは日本史入試でも対馬の歴史が扱われており、2年連続で一部の資料が重複していた。世界史・日本史の垣根を越えた新しい歴史学習が強く意識されているといえる。

Ⅲ問18(2)は2021年度早大・慶大オープンの経済学部用の選択問題として出題した、**6**問1(2)とズバリ的中であった。

<大問分析>

番号	形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 論述式	対馬の歴史(近世～現代)	2021年度の日本史と同一のテーマ。問1(1)康熙帝の治世下における三藩の乱の勃発と康熙字典の編纂開始の前後を求めるのは難しい。問2資料のcは、内容から壬午軍乱を想起できれば、済物浦条約という語句を知らなくても解答できる。問5単に通史的な説明をするだけでなく、冊封体制の崩壊や主権国家体制といった観点がもためられている。問6資料bはサンフランシスコ平和条約である。	標準
II	選択式 記述式 論述式	スペイン、ポルトガルの探検航海(近世中心)	2020年度の大問Iと類似したテーマ。過去問対策の重要性がわかる。問7問題文に「航海に関わった人物」とあるので、資料bの頃マゼランは死去しているが解答とする。資料cは、「南南東へと船を進め」とあるので、西廻り航路ではなく東廻り航路だと判断する。bとcが分かれば、aが分からなくても解答可能。問10(2)は、「番号が小さい順に左から記入しなさい」とあるので、時代順に並べる必要はない。	標準

地歴公民(世界史) 慶應義塾大学 経済学部 2/2

Ⅲ	選択式 記述式 論述式	パリ大学の歴史 (中世～現代)	問12(c)「実験科学」という語を用いた, という箇所が解答のヒントとなる。問14 資料アの内容から『愚神礼賛』と判断したいが, それが出来なくても(2)の問題からβをヘンリ8世と判断し, 続いてトマス=モア, 彼と親交のあったエラスムスと連想することも可能。問15 資料aの内容が演繹法の説明であることから, デカルトと判断したい。資料bは重農主義的な主張であることから判断する。問16dのティルジットの場所は盲点だが, 現在の国境線が書かれているので, 旧オーストリア帝国領を除外するなど, 消去法で解答したい。	標準
---	-------------------	--------------------	--	----

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

経済学部では, 年代整序問題や, 出来事の起こった時期を年表中から選ばせる問題が多いため, 歴史の流れや事項の前後関係, 年号をしっかりと学習したい。経済学部では同じ年に起こった事項でも, その前後関係を判断して史実順に並べさせるような出題をするため, 単に年号の数字を覚えるだけの学習では不十分である。また, 現代の欧米史は経済学部の頻出テーマであるため, 経済学部の性格を考慮した学習が望まれる。資料やグラフが出題されることもあるが, 類似の資料やグラフがたびたび扱われている。そのため, 過去問を解くことは経済学部を受験するにあたって必須といえよう。